

The Jumonji Press

新座キャンパスだより

No.44 / 2014.08 (AUGUST)



サッカー女子日本代表の佐々木則夫監督の講演



佐々木監督を囲んで



元宝塚の日向薫さんの講演 入学式

特集1 600人が勇気もらった
サッカー女子日本代表
佐々木則夫監督
大いに語る

特集2 就活最前線
目立つ早期内定

- 5 「巣鴨サテライト」を拝見
- 12 母校麗し
埼玉県立朝霞高校・埼玉県立新座高校
- 11 アンケート調査 十文字の学生のスマホ事情
- 13 OGから学ぼう 岡崎仁美さん・水野遥さん
- 8 十文字国際ニュース
ベトナムのハノイ医大と学術交流協定 ほか
- 10 十文字の学生の地域貢献活動
木でつながる人と被災地・緑のバトン運動

十文字学園女子大学

JUMONJI UNIVERSITY

叶えたい、その気持ち
が「+」となる

十文字が生まれ変わります。

人間生活学部は2015年4月から
新しく2学科が加わり9学科になります。
さらに3学科がリニューアルし、
学びの分野が広がります。

- リニューアル メディアコミュニケーション学科
- リニューアル 生活情報学科
- 新学科 文芸文化学科
- 定員増 人間発達心理学科
- 定員増 児童教育学科
- 定員増 幼児教育学科
- リニューアル 人間福祉学科
- 新学科 健康栄養学科
- 食物栄養学科

「十文字学園女子大学」
公式LINE@アカウントを
開設致しました。

LINE@

LINEの「[QRコード](#)」から
「十文字学園女子大学」を登録してください。
ID「@jumonji」で検索しても登録可能です。
※登録にはアカウントの取得が必須となります。

就職・合格実績		※平成26年5月1日現在	
幼稚園教諭 就職者数	平成26年度(平成25年度実績)	教員採用試験合格者数	(既卒生・期限付き除く)
平成26年3月卒業生 71名	過去3年合計235名	公立小学校 28名	養護教諭 20名
保育士 就職者数	平成26年3月卒業生	国家資格取得者数	
平成26年3月卒業生 66名	過去3年合計178名	社会福祉士国家試験 15名	(過去3年)31名
		介護福祉士国家資格 14名	(過去3年)51名
		管理栄養士国家試験 99名	(過去3年)248名

編集後記

今回の新座だよりは、4月に新築されたウッドデッキや巣鴨にある十文字中学・高等学校内にできたサテライトなど、新しい施設を紹介しました。十文字一夫理事長の学園に寄せる思いが印象的でした。また校内のさまざまな行事を学生目線で取り上げましたが、なでこジャパンの佐々木則夫監督の講演が高

校生や十文字の学生に熱く伝わったことも感動的な出来事でした。学生生活がより充実し、わが母校をより深く知る機会になれば幸いです。最後になりましたが、取材等にご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。(編集長・内海沙也加)

【新座キャンパスだより 第44号 2014年8月12日発行】
 発行人：木名瀬正行
 編集長：内海沙也加 監修：大西正行・石野榮一
 発行：十文字学園女子大学・十文字学園女子大学短期大学部
 十文字女子大附属幼稚園
 住所：〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28
 電話：048-477-0555 (代表)

佐々木監督の講演は、十文字高校・中学校と十文字学園女子大学のサッカー部を率い、佐々木監督と旧知の石山隆之准教授の講師紹介で始まった。

女子サッカーの普及はもちろん、子どもの教育、被災地の支援にも広範に取り組む佐々木監督が強調したのは、2011年のワールドカップ・ドイツ大会の優勝、2012年のロンドン五輪銀メダルの快挙の裏に隠された選手のひたむきさだった。

「今までの一日一日が積み重なってこの結果になっている。サッカーがなお男子のスポーツではないかと言われる状況の中で女子の選手たちは大好きなサッカーをやっているのです」

「2008年は北京五輪でベスト4。しかし最後まで戦ったのにメダルをもらえない歯がゆさがパワーになり、チャンピオンを目指しました」

女子サッカーは男子と比べて国際的にもまだ認知度が低く、サッカー協会の女性登録数増の目標達成はこれから。日本の女子サッカー人気は、「なでしこジャパン」がけん引しているといってもよいのだ。しかし、女子サッカー隆盛への希望はある。20年には東京五輪、23年にはW杯女子サッカー大会が日本で行われるからだ。

「今の若い選手をいかに育てるかで、皆さんにまた感動を与えられるかが決まるのです」

被災地を元気に——
胸打った選手の恩返し

振り返れば2011年3月の東日本大震災は、海外遠征から帰ったばかりの「なでしこジャパン」にも、練習場の確保などで影を落とした。しかし、この間にある変化が起きた。スタミナが足りず北京五輪に呼べなかった東京電力の選手が発奮し、その

夢×出会い それが力に……

サッカー女子日本代表の佐々木監督が講演

2月22日、十文字学園女子大学の記念ホールは、プロサッカー指導者でサッカー女子日本代表「なでしこジャパン」監督佐々木則夫氏の講演「夢と出会いが力に…チームワークとコミュニケーション」を聴く小中高生・大学生はもちろん、近隣の方々も含めて600人で埋まった。「集団的知性の質の向上を心掛けたい」「成功の反対は失敗ではなくチャレンジから逃げる」と説く佐々木氏の肉声は、爽やかに、しかし重い教訓として聴く者の心に刻まれた。トップダウンでも放任でもなく、合理性と情感を兼ね備えた日本の新しい指導者から参加者が多くを学んだ珠玉の時間だった。(深田安莉記者)

600人が「変われそうな」勇気をももらった

後のアメリカ遠征で素晴らしいプレーをしてロンドン五輪代表に決定したのだ。

「彼女は東京電力の選手として、お世話になった地域に『元氣』を送りたい一心でサッカーを続けていました。そして厳しい状況でも被災地の皆さんに頑張っしてほしいというチームの思いは一つになったのです。大変な状況になった時のパワーはこんなにも大きい」

世界の選手と比較して体の小さい「なでしこジャパン」の強さが、そのスキルとコンビネーションプレーにあることはよく知られている。そして、この厳しい練習の背中を押すのは、JFA女子委員会が緻密に練り上げた目標設定「なでしこビジョン」であり、ひたむきな努力を怠らない日々の生活態度「なでしこらしさ」の定着であった。

「サッカーを日本女性のメジャースポーツにする」と、「なでしこジャパンを世界のトップクラスにすること」(代表に選ばれなくてもサッカーを通じて言語や文化を学ぶ

海外で活躍できる世界基準の『個』を育成する——これが3本柱です」

気軽に話せる
新しい指導者像に共感

「なでしこらしさ」には、ひたむきさに芯の強さ・明るさ・礼儀正しさが加わるが、佐々木監督がよく口にする相手へのリスペクト(大事に思うこと)も、この延長線上にあるのだろう。そして「なでしこらしさ」の大方針は、選手の人格陶冶と一体の合理性に裏打ちされた佐々木監督の指導理念と深く関わっていた。

「物事を大・中・小に分けて相手に伝わりやすい説明を心掛けることが大事です。指導者が自分を否定されてカチンと来るのは駄目。監督だから話しくいと思うことも話してもらえようように努めることです」

佐々木監督が指導者のわきまえとして挙げたのは責任・情熱・忍耐・論理的な分析思考・謙虚等11項目にも上り、時には矛盾する項目を組み合わせてチームを導く苦勞は想像を絶するものがある。自己保存に執着するとされる脳神経細胞の「癖」まで披瀝し、講演予定時間をオーバーして熱く語り続けた「具体的目標を持った理想追求」は、スーパーパワーの持ち主佐々木監督だからこそ可能なかもしれない。

なでしこジャパンはこの講演会が行われた三月月後、アジアカップで初優勝した。佐々木監督のリーダーシップとなでしこの強さに改めて感動し、今後一層の活躍を祈った。

講演後、アジアカップ優勝の快挙!



十文字高校サッカー部員感動! 私たち大学生も頑張ろう

講演会場には、十文字高校サッカー一部の部員の姿があった。部員皆で佐々木監督に送ったメッセージにはこんな文章がいくつもあった。「今日から私は変わらな

ければいけない」という自らの決意だ。先輩たちのこの志の高さは、私たち大学生も大いに学ばなければいけないと思った。(深田安莉記者)

★十文字高校3年 宮川真莉乃

もっとチームのことを考えなければいけないと心を引き締めた。

★十文字高校3年 熊谷 汐華

「歩歩是道場」(志を広く持てばいるんなことを学べる)という言葉が大事にしたい。

★十文字高校3年 平野 優花

先生にやらされてやっている主体性のない練習なら試合では意味がない。自分たちで練習の雰囲気を作っていきたい。

★十文字高校3年 海老澤桃子

大震災でばらばらになった人々に元氣を与えたい気持ちが、なでしこの選手の内面を変えたのだ。

★十文字高校3年 中島菜々子

身体能力・体格のハンデを補うため、日本は技術、戦術、連携運動で相手の自由を奪い工夫しながら戦った。工夫は自主性、団結力を生むのだ。

★十文字高校3年 荒 智尋

なでしこらしさとは、ひたむきで、芯が強く、明るく、礼儀正しいことだと知った。



佐々木監督への
メッセージ

チームワークと 信頼感の大切さ 改めて学ぶ

十文字学園女子大学
サッカー部 主将
伊藤 千晶
(幼児教育学科2年)



私たち十文字学園女子大学サッカー一部は、部員総出で、裏方として講演会の運営にあたりました。佐々木監督の話聞いて、「まずは選手の気持ちを理解しよう」という姿勢がとても素晴らしいと思いました。大学のサッカー一部はまだまだ力不足ですが、石山総監督のもと、上を目指すのももちろんのこと、チームワークや信頼感を大切に活動していく大切さを改めて、この日学びました。

パラソルの中庭で食事、談笑・・・

昼の憩いの場増設
学生に好評

新学期から1号館食堂に新たな屋外空間が目見えした。廊下を挟んだ向かいにはテーブル席とカウンター、外にはパラソル付きのテーブル席が新設された。

オープンスペース両側の植物はすがすがしく、池の中のコイや金魚も気持ちよさを和ませてくれる。

人間福祉学科1年の三浦未喜さんは「ここは食堂の中よりずっとすくすく静か」と話す。メディアコミュニティ学科2年の横山仁美さんは「パラソルの色を例えれば春はピンク、夏は青とかに変えていけば季節感が出るのでは」という提案をした。人気は上々だ。

(ヨウリュウ、カクトウトウ、チョウマンカ記者)



小粋なガーデンプレイス

拝見！ 十文字中学・高等学校

学園創立90周年プロジェクトの一環として巣鴨の十文字中学・高等学校敷地内の幼稚園舎跡に、本館と同じ淡いブラウンの色合いの5階建て新館が建った。1月21日に開校式が行われ、大学も利用できる「巣鴨サテライト」をはじめ、使用が開始された新館を拝見した。

(内海沙也加編集長、坂田佑莉記者)

延べ床面積5984平方メートル、高さ19階で、最新の耐震構造を誇り、天井の高さはもちろん、「すべてが学びを含めた生活空間」という設計思想で貫かれた新館は、廊下が広くて明るく、1階には中庭から陽光が差し込むカフェテリア、2・3・4階には学習、行事、部活用に教室、体育小ホール、多目的ホール、茶室、6コースのプールなどが入り、5階に多目的利用空間「巣鴨サテライト」があった。

「巣鴨サテライト」に入ってみると、見た目はオフィスのよう。手前のゆったりとした自由スペースのラウンジと多目的教室の仕切り壁がガラスで作られているため開放感抜群。会議や研究会の規模に応じ机等の柔軟な配置が可能。なうえ、プロジェクトも使える少人数教室も2つあった。その一つは既に児童教育学科の先生や学生が研究のために、週1回使用しているという。



【巣鴨サテライトの利用手引き】利用希望者は、使用願に必要事項を記入し、原則10日前までに管財課(8号館1階)に提出する。予約状況はオフィスヘルパで確認できる。



ゆったりとした学びの空間「巣鴨サテライト」

新館に「巣鴨サテライト」 大学も申請・教員引率で利用可に

十文字高校出身の私(内海記者)は、新館の庭に立ち、今はない幼稚園舎の庭の大きな椎の木が残っていたことに感動した。その脇に移植された、栃木から取り寄せたという「思川桜」の苗もいずれ見事な花を咲かせるだろう。

「巣鴨サテライト」の利用時間は午前9時から午後9時まで。大学の教職員が使用責任者として同行する条件のもと、申請して認められれば使用できるようになっていると聞いた。「忙しい方をゲストに招くなど都心で勉強するメリットがある場合は、私たち学生も是非利用してみたい」(坂田記者)と思った。



新入生、満開の桜も激励

入学式

平成26年度



感謝の言葉と心の余裕を道しるべに

卒業式

平成25年度

平成26年度入学式が行われた4月5日の新座キャンパスには、春の嵐に見舞われた前日がまるで嘘のように、陽春の日差しが778名の新入生を包みこんだ。

横須賀薫学長は本学の学園歌から創立の理念を説き、「この大学を巣立ってからどんな人間になろうとするのか、社会でどう役に立とうとするのか、自分自身でしっかり探してください。それがこの大学で学ぶことの意義です」と激励した。

十文字一夫理事長は「女性としての美しさは、心の美しさ、温かさ、思いやりだ」と述べたうえで、「学問だけではなく、自分を磨くことでよ

り充実した学生生活を送ってください」と新入生にエールを送った。

来賓の金子廣志新座市教育長からは、在学生や卒業生の日頃の活躍が披露され「十文字の学生であることに誇りを持ってほしい」とお褒めの言葉をいただいた。

これを受け、新入生代表の児童教育学科水野舞花さんが「自らの手で人生を切り開いていきたい」と、これからの新座キャンパスでの実りある勉学と学生生活に向けて決意を述べた。式後、「素直で優しい女性になってほしい」と記者に語ってくれた保護者らに祝福され、笑顔で会場を後にする新入生の姿がまぶしかった。(高塚愛美記者)

平成25年度十文字学園女子大学・短期大学部、大学院の学位記授与式、留學生別科の修了式が26年3月19日に行われた。大学(社会情報学部・人間生活学部)から753名、短期大学部から75名、大学院から4名に卒業証書、留學生別科から17名に修了証書が授与され、記念ホールを埋めた保護者、教職員らから祝福を受けた。

横須賀薫学長は「写真は式辞で、難しい問題にぶつかったらそのことばかり思い詰めたりするより、時間をおいてみる余裕を持つことの大切さ、さらには考える視点を変え、多様なものを見る力を養うことが大切です」と、社会の荒波を生き抜く知恵を授けた。

祝辞に立った十文字一夫理事長は、「一人一人が持っている優しい気持ち、温かい気持ち、思いやりの気持ちを相手に伝えることが出来る言葉が『ありがとう』です。自分からその言葉を掛けることで、相手に自分のことが分かること、相手に自分のことが分かること、相手に行き届く」と、女性の社会進出、女性のリーダー輩出が必須の時代を担う卒業生を励ました。

卒業生代表の仲里美香さん(人間生活学部・幼児教育学科)は、「これまで学んできたことを思い出し、自分本位にならず現実と向き合い、試験を乗り越えていきます」と決意の言葉を述べた。(福島茉莉記者)

新館への思い—十文字一夫理事長に聞く コモンスペースを十分に

伝統継承—本館設計者の長倉先生に依頼

巣鴨の本館建設(定礎1984年)から30年、十文字学園の歴史に新しいページを加える新館建設に力を注いだ十文字理事長に、その意義などを聞いた。

◇

十文字理事長は、新館の基本設計が本校舎の設計に当たった長倉康彦先生(当時、東京都立大学工学部教授)によることを明かした。学舎建設設計の第一人者が手掛けた本館は、生徒がゆとりをもって使える各階教室周辺のコモンスペース(学習生活環境を意識した拡張スペース)に特長があり、天井の吹き抜け等も含め、当時から教育関係者の間で高い評価を受けていた。



新館への思いを学生に伝える十文字理事長

「長倉先生の叙勲のお祝いがあり、お目にかかる機会がありました。長倉先生は80歳を超えておられたものの、とてもお元気でした。そこで新館建設の話題が出て、再び長倉先生に基本設計をお願いすることになったのです」

コモンスペースの考え方を重視した本館の設計思想を隅々まで継承し、本館と新館の調和を図る設計者は長倉先生以外に考えられなかった。

「これまで大学(新座キャンパス)の整備に力を注ぎ、巣鴨には随分待ってもらいました。新館の耐震等の画期的な工法はもちろん、授業にも部活動にも思う存分使っていただけ、都内の学校では屈指の新しい拠点が加わったと思います」

学園関係者の英知を集めた中から、新座キャンパスとの連動による相乗効果も期待して新館5階に「巣鴨サテライト」が設けられた。

「もちろん中学校・高等学校のための校舎ですが、大学でも都心のスペースが学びのために必要な時は使っていたら、という思いです。『巣鴨サテライト』の活用は大学と高校・中学校との交流を促し、地域・社会との繋がりがもぎと増すだろう。」(内海編集長、トウセツパイ記者)

就活最前線

レポート



25年度就職状況 早期内定が目立つ

就職支援部長 本間修

平成25年度の就職活動はアベノミクス効果の期待感のなかで開始された。リクルートワークス研究所の4月23日の調査発表では大卒求人倍率1.28倍と前年(1.27倍)とほぼ同じとなり、業種間で求人倍率のバラツキがあるものの、リーマンショック以降下げ続けていた求人倍率は下げ止まりの傾向がみられた。本学でも近年になく採用解禁の4月や5月以降にはやばやと内定を獲得した学生も多かった。一方で夏休み前に採用活動を終了させた企業も多く、就職活動に出遅れた学生にとっては、例年以上に厳しい状況に直面することとなった。

さて本学の25年度就職状況であるが、最後の卒業生となる社会情報学部就職率95.2%、人間生活学部の就職率は98.9%、大学全体では97.7%。短期大学部では91.5%となり各学部とも前年以上の実績を残すことができた。

特に専門就職の多い幼児教育学科、児童教育学科、人間

インターンシップ活発化に対応

福祉学科では100.0%の就職率を誇ることができた。27年度の採用活動開始の「後ろ倒し」に万全を

さて、次年度の採用活動の開始時期は大幅に後ろ倒しとなる。具体的には企業の広報活動が3月1日、採用選考活動が8月1日という短期決戦となる。一方で早い段階からインターンシップ受入れ等により学生との接点を探る企業側の動きも活発となりそうである。就職支援部としてもそのような動きを探りながら、学生が就職活動の準備を怠らぬことなく、また活動が出遅れとなることのないように精力的な情報収集の活動を行うとともに、教職員一体となった個別指導を強化して参りたい。



DATA

25年度卒業生の主な就職先

- | | | | | | |
|---|--|---|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 製造業 ◇アズビル金門 ◇アライヘルメット ◇飯島鋼管 ◇伊藤鉄工 ◇NOK ◇紀文食品 ◇クラボウインターナショナル ◇グルメリカ ◇新星機工 ◇東洋クオリティワン ◇トッパン・フォームズ ◇ホーチキ ◇丸和油脂 ◇三井三池製作所 ◇武蔵野 ◇大和合金 | <ul style="list-style-type: none"> 卸・小売業 ◇アーキヤマデ ◇イチエ ◇オンワード樺山 ◇関東マツダ ◇京橋千足屋 ◇クリエイトエス・ディ ◇ココカラファインヘルスケア ◇コモディイイダ ◇コンフェックス ◇サマンサタバサジャパ ◇サンリミテッド ◇サンエー・インターナショナル ◇ジョーユー ◇島忠 ◇しまむら ◇JUNグループ ◇スーパーバリュー ◇ススキ自販埼玉 ◇スズケン ◇世界堂アール ◇セキ薬品 ◇そごう・西武 ◇トモズ ◇トヨタカローラ新埼玉 ◇ノジマ ◇はばす ◇ハリカ ◇はるやま商事 ◇ピギ ◇マツモトキヨシ ◇ミキハウス ◇三井食品 ◇三越伊勢丹(メイト社員) ◇みの台業局グループ ◇ユナイテッドアローズ | <ul style="list-style-type: none"> 金融業 ◇朝日信用金庫 ◇川口信用金庫 ◇埼玉信用組合 ◇第一生命保険 ◇東急カード ◇東京信用金庫 ◇丸三証券 ◇みずほビジネスサービス ◇三井住友銀行 ◇三井住友トラスト・ビジネスサービス ◇三菱商事インシュアランス ◇水戸証券 ◇武蔵野銀行 ◇明治安田生命保険 ◇リソナホールディングス | <ul style="list-style-type: none"> 飲食業 ◇一富士フーズサービス ◇エムササービス ◇エム・ティー・フード ◇大戸屋 ◇グリーンハウス ◇シタックスフードサービス ◇タリーズコーヒー(ジャパン) ◇東京天竜 ◇東洋食品 ◇日清クリエイト ◇日清医療食品 ◇ニフス ◇日本栄養給食協会 ◇ハーベスト ◇葉隠勇進 ◇ファンデリ ◇富士産業 | <ul style="list-style-type: none"> 建設業 ◇バコーレーション ◇不動産業 ◇西武開発 ◇リース業 ◇みずほ信託不動産販売 ◇ニッポンレンタカー埼玉 ◇電気ガス業 ◇大東ガス ◇東彩ガス | <ul style="list-style-type: none"> サービス業 ◇オリエンタルランド ◇カモメツリスト ◇近畿日本ツーリスト ◇龍名館 ◇フジランド ◇ベネミール ◇物語コーポレーション ◇LEOOC ◇旅行・宿泊業 ◇サービス業 ◇大宮氷川神社 ◇学情 ◇鹿島建物総合管理 ◇ケイ・テクノ ◇ジャパンプロテックショ ◇ビジネスオリコ ◇マンパワグループ ◇複合サービス業 ◇東京みどり農業協同組合 |
|---|--|---|---|--|--|

保護者の立場は「就活サポーター」



保護者向け就職セミナー 辻太一朗氏が講演

アベノミクスで学生の就職活動に回復のかすかな兆しが見える中、5月17日に十文字学園女子大学の「保護者向けセミナー」が開かれた。多くの保護者、教職員が出席した同セミナーでは、NPO法人「大学教育と就職活動のねじれを直し、大学生の就業力を向上させる会」代表理事で面接トレーニングの実績を持つ採用コンサルタント辻太一朗氏が「就職・採用を取り巻く環境と保護者の役割」と題して講演した。

辻氏は、「保護者の皆さんはあくまでサポーターです」と切り出し、保護者自身が就活中の我が子にとってあくまで「就活サポーター」の位置付けであることを前提として支援する繊細さを持ち続ける必要を強調した。

そのうえで、多くの企業、多くの学生と接してきた体験を踏まえて、「就職を成功させるための14の鉄則」を紹介。この中で、親が我が子に言うてはいけない言葉として「そんな会社知らないな!もっと有名なところがあるだろう(お子さんの意思を否定しない。決めつけない)」、「〇〇君は、もう内定をもらったらしいよ(友達との比較はしない。就活の進捗は個人差がある)」、「そんなに大変なら来年、いい会社を探したら(大きなストレスに立ち向かっているお子さんへの逃げのアドバイスは禁物) 一等を列挙した。

一方、アドバイスの際の適切な言葉として「この会社知ってる?結構業績いいらしいよ(情報を得るために協力・共有する)」、

「〇〇会社の〇〇さんを紹介するけど、自分で連絡しなさい(お子さんの自発的行動・モチベーションを促す)」、「新人の頃、仕事で目標を達成した時は感激したよ(社会人として保護者の仕事観を語る) 一等が望ましいとした。

辻氏はこれらの具体的な指摘の中で、「女子大生は真面目にコツコツと対応するタイプが多く、それ自体、重要な資質といってよい」と評価し、学生が自分から積極的に行動する環境づくりを心掛け、保護者として睡眠時間や食事を含めて我が子の体調を気遣う大切さにも触れた。

就職活動がピークの連休明けとあって保護者の関心は高く、エントリーシートや面接の対応、会社説明会のスマホによる申し込みの有利性などに関し活発な質問が出た。

講演に先立ち、横須賀薫学長が挨拶で「本学の就職に対する基本姿勢」を述べ、岡林正和副学長(就職担当)が「本学の就職状況と就職支援」について説明。講演後には保護者への学科ごとの説明会が専任教員の手で行われた。



講演する辻氏 会場を埋めた保護者ら(=記念ホール)

- | | | | | | | | |
|--|---|---|--|--|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 短大 製造業 ◇赤坂柿山 ◇協永堂印刷 ◇大観社 ◇テラル ◇東京化成工業 ◇中川製作所 ◇松本興産 | <ul style="list-style-type: none"> 卸・小売業 ◇キヤメル珈琲 ◇京橋千足屋 ◇埼玉県教科書供給所 ◇サマンサタバサジャパ ◇ソニミテッド ◇成城石井 ◇東京新宿木材市場 ◇トヨタカローラ新埼玉 | <ul style="list-style-type: none"> 医療・福祉 ◇愛光学舎 愛光大和田保育園 ◇愛友会 上尾中央総合病院 ◇朝霞杏樹会 あさしがおか保育園 ◇井上眼科医院 ◇川越市医師会 ◇国立保育園 ◇祉智会 龍原病院 ◇こどもの森 ◇湖山医療福祉グループ ◇埼玉聴覚障害者福祉会 かなふく苑 ◇慈誠会 ◇高砂福祉会 ◇戸田市福祉事業団 ◇新座福祉会 ◇日本保育サービス ◇東松山社会福祉協議会 ◇ポピンス | <ul style="list-style-type: none"> 公務 ◇武蔵野会 朝霞台中央総合病院 ドック健診センター ◇大和会 大内病院 ◇ユニマツトそよ風 ◇埼玉県警 ◇八潮市役所 ◇特別区(東京23区) ◇麻の実幼稚園 ◇板橋向原幼稚園 ◇岩木幼稚園 ◇浦和明の星幼稚園 ◇浦和若竹幼稚園 ◇亀戸幼稚園 ◇川越ひばり幼稚園 ◇栗橋さくら幼稚園 ◇越谷保育園 ◇吉川幼稚園 ◇坂戸あずま幼稚園 ◇幸手ひがし幼稚園 ◇狭山ヶ丘幼稚園 ◇真理学園幼稚園 ◇清心幼稚園 ◇清泉幼稚園 ◇関町カトリック幼稚園 ◇草加ひまわり幼稚園 ◇武里百合幼稚園 ◇でんえん幼稚園 | <ul style="list-style-type: none"> 保育園(保育士) ◇新座市 ◇上尾市 ◇入間市 ◇さいたま市 ◇坂戸市 ◇幸手市 ◇小川町 ◇板橋区 ◇葛飾区 ◇北区 ◇新宿区 ◇小平市 ◇羽生市 ◇東村山市 ◇府中市 | <ul style="list-style-type: none"> サービス業 ◇ホンダカーズ埼玉 ◇リコ・ホールディング ◇複合サービス ◇くまがや農業協同組合 ◇全国農業協同組合連合会 ◇リース ◇ニッポンレンタカー埼玉 | <ul style="list-style-type: none"> 教育・学習支援 ◇埼玉県教育委員会 ◇さいたま市教育委員会 ◇茨城県教育委員会 ◇千葉県教育委員会 ◇東京都教育委員会 ◇福島県教育委員会 ◇北海道教育委員会 ◇横浜市教育委員会 ◇さわ研究所 | <ul style="list-style-type: none"> 医療・福祉 ◇取手市 ◇あきくさ保育園 ◇大宮つばき保育園 ◇小島南保育園 ◇笠幡菜の花保育園 ◇きよせ保育園 ◇恋ヶ窪保育園 ◇小岩みどり保育園 ◇椎の実保育園 ◇下里しおん保育園 ◇聖徳保育園 ◇立野みどり保育園 ◇西園分寺保育園 ◇パンピ保育園 ◇平和保育園 ◇岩槻さくら保育園 ◇鷲宮保育園 ◇教育・学習支援 ◇埼玉県教育委員会 ◇さいたま市教育委員会 ◇茨城県教育委員会 ◇千葉県教育委員会 ◇東京都教育委員会 ◇福島県教育委員会 ◇北海道教育委員会 ◇横浜市教育委員会 ◇さわ研究所 |
|--|---|---|--|--|---|---|--|

留学生が横浜の新聞博物館を見学

WEB（日本語版と中国語版）で発信

5月11日、本学で学ぶ留学生16名が横浜の「日本新聞博物館」などを見学、その模様をWEBマガジンで掲載した。留学生の母国の家族・友人からも読める日本語版・中国語版の2カ国語発信スタイルが注目され、6月26日付読売新聞に大きく紹介された。

取材には、総合ゼミ「日本文化理解・国際目線でweb制作」受講生とメディアコミュニケーション学科のゼミ生が参加し、新聞発行の始まりをはじめ、戦前戦後を通じた過去の新聞に掲載された大ニュース、広告の歴史、鉛の活字からコンピュータ時代へと移っていく印刷技術の進歩などをリアルに学んだ。



読売新聞（6月26日付）に国際目線でWEB制作に取り組み本学留学生の記事が紹介された

博物館内に展示された飛行機、大小の古いカメラなど報道用の機材に接しながら、留学生たちは歴史の綴り手としての日本の新聞ジャーナリズムの一端に触れた。

ホで新聞が読める時代に生きているが、紙の新聞が切り開いた報道の役割はどの国でも大きい（ロシヨウキンさん）と実感を語った。



七夕パーティーで新しい友達と出会う

7月7日、本学カフェテリアで学友会代表委員 企画画局主催の第11回七夕パーティーが行われた。集まったのは、留学生、日本人学生を含めて24名で、学友会スタッフ14名がお菓子やジュースなどを用意し出迎えた。小関千穂企画画局長、大西正行



国際交流センター長のあいさつの後、チームごとに分かれて七夕にまつわるクイズの正解を競い、ビンゴゲームに歓声を上げた。

パーティーには北京語言大学の交換留学生2人も参加。その一人ヨウリュウさんは「クイズの賞品でネックレスをもらい、とてもうれしかったです」と話した。（山城桃子トウセツバイ記者）

七夕パーティーで交流深める

ハノイ医大との

学術交流協定に調印



学術交流協定調印式（ハノイ医大）

調印式で講演する山本教授

本学がベトナムで栄養士の養成を支援

ベトナムの最高学府であるハノイ医大と十文字学園女子大が3月24日、同医大に昨年新設されたベトナム初の栄養学専門コースの支援に関する協力協定（学術交流協定）をハノイで締結した。

調印式には、本学から志村三夫副学長、名倉秀子食物栄養学科長、近藤秀二学術情報部長が出席。山本が記念講演を行った。

協定には、日本栄養士会、神奈川県立保健福祉大および味の素株式会社も参加。日本のカリキュラムを導入し、日本から多くの教員を派遣するなど、学部全体を丸ごと「輸出」するような協力形態で、新たな国際教育交流の姿としても注目され、NHKクロワッサンアップ現代や地元紙埼玉新聞はじめ多くの新聞に掲載された。

この活動は、山本が約20年にわたりベトナム国立栄養研究所およびホーチミン栄養センターと連携して行った共同研究や、多くの留学生を指導したことが基本となっている。現在も本学大学院には、ベトナムの留学生が7名在籍し栄養学を学んでいる。

ベトナムの近年の経済発展は著しく、食生活も改善され、労働も座業が増えている。山本は、ベトナムの伝統的な白米の多い食生活と肉体的活動の低いライフスタイルのために、血糖値の上昇が顕著で、見かけは正常な体型にもかかわらず、糖尿病になるケースが多いことを報告。その解決のために、白米を発芽玄米に変える、野菜を増やすといった活動を国家レベルの活動として実施している。

こうした活動がベトナム政府に伝わり、ハノイ医大に昨年、4年課程の栄養学部が新設された。今年9月からは日本のカリキュラムを導入。十文字学園女子大のほか神奈川県立保健福祉大、日本栄養士会や食品会社「味の素」が、教員や研究者約20人を派遣し現地教員とともに学生を指導する予定である。

（人間生活学研究科教授 山本茂）

ハワイ大学…訪問団教員研修などを協議

十文字学園女子大学および十文字学園サッカー部とハワイ大学との包括的パートナーシップ協定に基づき、3月12日から18日まで、福田仁教授（国際交流副センター長）、石山隆之准教授、柳澤貞夫総務部次長がハワイを訪問し、今後の教員研修や留学生の対応等を協議した。十文字高校サッカー部も第2回ハワイインターナショナルカップに参加し、2年連続優勝を飾った。（石山隆之准教授）



十文字高校サッカー部も参加

留学生の「泊ホームステイ」を推進—教職員の家庭へ

留学生の「泊ホームステイ」を推進している国際交流センターでは、新年度から、受け入れ可能な教職員の家庭にもプランへの協力を呼びかける一方、センター教職員が中心となって、教職員の家庭に希望学生を招き、本学留学生の日本文化理解と学業の向上に繋がる心の触れ合いを続けている。

ヒサンサンさん（中国武漢市出身、別科生）を迎えた我が家は、5月31日は手塚治虫の仕事場だった手塚プロに寄りつつ、名利平林寺へ。新緑が爽やかだった。

家具の二トリ、ヤマダ電機で買い物をし、回転寿司へ。のり巻き寿司は食べたことがあるが、ヒサンサンさんは生魚の寿司は初めてで、感想は「おいしい！」。

翌日は日本の家庭料理を我が家で食べ、JR新座駅前のカラオケでは、中国語の歌を上手に唄ってくれた。（池間里代子准教授）

留学生の「泊ホームステイ」のうち、留学別科生を招いた池間里代子准教授（新座市野火止）のレポートを紹介する。

思いを形に、世界を1つに

内閣府グローバルリーダー育成事業に参加

生活情報学科4年 植竹恵美香

1月25日から2月22日まで内閣府主催の国際交流事業「グローバルリーダー育成事業」に参加した。

東京都での陸上研修では4つの専門コース（異文化理解、環境、青年起業、情報・メディア）に分かれてのディスカッションや、都内視察を行い、大型客船「にっぽん丸」に乗船し各国の文化紹介やセミナーを行う船上研修、宮城県石巻市で東日本大震災からの復興状況を視察する寄港地活動を行った。その後、トルコ、パーレーン、フィジー、メキシコの4カ国海外研修では日本大使館への表敬訪問やホームステイなどを通して理解を深めた。

世界9カ国の青年が一堂に会し、自身の将来や自国の現状について語り合う。そんな研修での体験は全てが新鮮で、常に新しい価値観に出会い、同時に異文化の壁に苦しんだ。しかし、そうした障壁を少しずつ乗り越え、一つにまとま



ホストファミリーとメキシコシティを散策（左から2人目が植竹）

っていき姿はまさにグローバル化そのもの。世界中にネットワークを持った私たちが社会を担い、次世代を築くことこそが研修で得た成果を生かす道だと実感した。

十文字の学生のスマホ利用状況アンケート調査

半数以上の学生はスマートフォンを1日3時間以上使い、8割近くは親が料金を支払い、大多数が「学生生活に役立っている」と考えている——。学内メールを利用して私たち新座キャンパスだより編集局が全学生対象にスマホに関するアンケートを実施したところ、こんな十文字の学生の姿が分かった。他方でトラブルの経験談も数多く寄せられ、利便性の裏側に潜む危険性があらためて浮き彫りになった。アンケート実施期間の2014年6月8日～6月25日の間に258人から回答が寄せられた。(内海沙也加編集長、坂田佑莉記者)



「つなごう被災地へ」(宮城県岩沼市) 緑のバトン運動

苗を植樹する学生

交流植樹祭に学生31人参加
6月28、29の両日、宮城県岩沼市で「つなごう被災地へ」を合言葉にした交流植樹祭が行われ本学からソウキリンくらぶ同好会と、児童教育

学科を合わせて学生31人と横須賀学長ら教職員が参加した。交流植樹祭は、緑の再生と被災地を思う心をはぐくむことを目的に、全国の学校で育てた苗木を東日本大震災の被災地に植える朝日新聞社主催の「緑のバトン運動」の一環。本学でも地域連携・環境研究所が中心となって運動に取り組み、昨年夏に苗木300本を学内で配布し、学生、教職員が1年かけて育てた。

横須賀学長も植樹

「千年希望の丘相野釜公園」の式典では、りそな銀行東和浩社長の挨拶に続き、来賓として招かれた本学の横須賀学長が挨拶した。学生や教職員は、地元の人たち、緑のサポーターらと一緒に約2400本の苗木を植樹し、被災地の復興に思いを込めた。ソウキリンくらぶ同好会の阿藤智有さん(人間発達心理学科1年)は、「活動を通して震災について考える機会となった。今回植えた苗木が被災地の未来を守ってくれたらうれしい」と話していた。(中村有香記者)

十文字の学生の地域貢献活動



そうだ埼玉

十文字の学生も登場 埼玉を元気にと一役
AKB48の「恋するフォーチュンクッキー」を使ったご当地PRビデオが全国で話題となる中、埼玉をPRしようというオリジナルソングを使ったビデオが制作された。その名は「そうだ埼玉」。制作協力に名乗りを挙げた会社や学

校、団体などからの出演者が曲に合わせてダンスを踊るビデオだ。埼玉生れ、埼玉育ちのダンスインストラクターMarkiさんが振り付けを担当した。本学学生の長谷川彩さん(メディアコミュニケーション学科4年)ら10人が参加し、食堂前で元気に収録した。完成した映像はユーチューブ

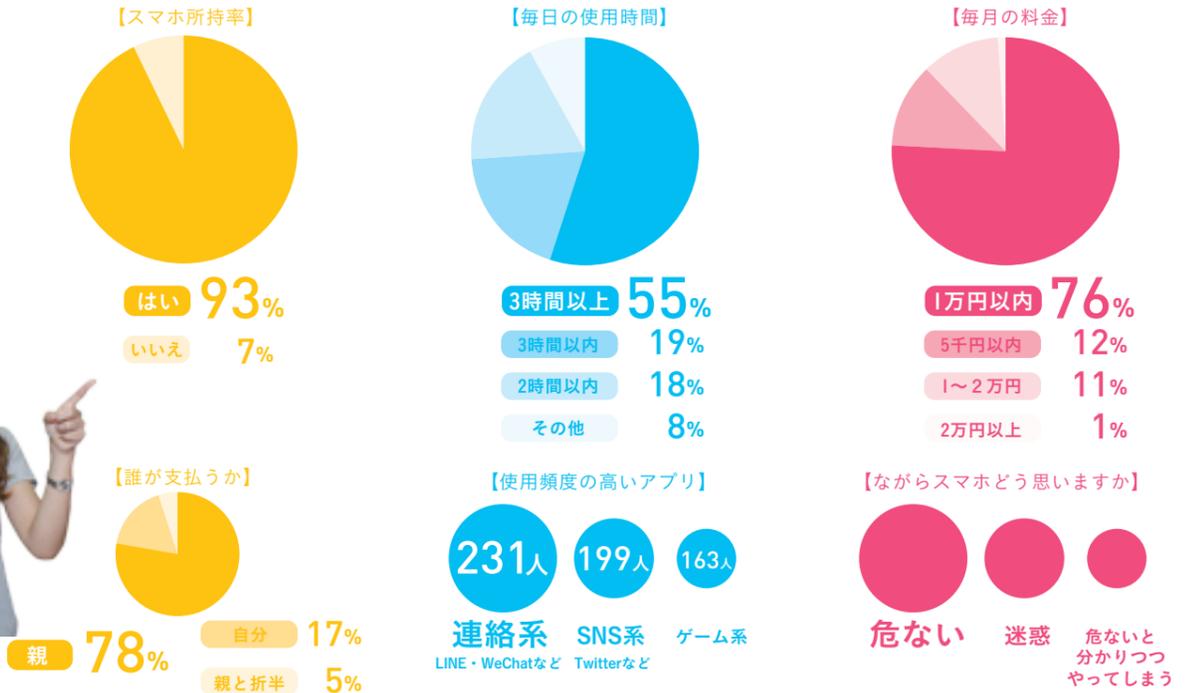
やフェイスブックにアップされており、十文字の学生の元気よく踊る姿を見ることができ。この企画は、「地域を愛する人が地域を元気にして、地域を変えていく」をモットーに40代～60代までの約50人からなる埼玉まちおこし任意団体、「I love SAITAMA」が中心に活動する総合クリエイティブ・エージェンシー、「天下茶夜」が2013年11月

に、「そうだ埼玉プロジェクト」を立ち上げた。埼玉県物産観光協会が加入し、埼玉県広聴広報課と埼玉県産業文化センターも協力している。リーダー役の長谷川さんは、「撮影日まで時間も少なく、多くの困難はあったが挑戦することが好きで、企画を聞いた瞬間にやりたいと思った」という。ゼミの友達や後輩達に参加を呼び掛け、10人で話し合いを進めた。練習したのは撮影当日の2時間だけで、あとは各自で練習してもらったそう。今まで色々なことにチャレンジしてきたが、今回の企画参加でさらにチャレンジしていきたいと思うようになった」と語る長谷川さんの表情には自信があふれていた。学生に参加を呼び掛けた飯田路佳准教授(メディアコミュニケーション学科)は、「参加の回答まで日にちがなかったうえに、撮影までも1週間くらいと短かったが、二つ返事で受け入れてくれた」と振り返る。「学生達が自分の力で計画を立てて、行動したことが大事。これからもいろいろなことに積極的に取り組んでもらいたい」と笑顔で話した。(大戸彩記者)

回答者の93%がスマホを所持しており、名義は自分と他人(主に親)が半々。ガラケー携帯は小、中学生時代に7割が所持し、スマホを持った時期は高校時代50%、大学生になってからが49%だった。毎日の使用時間は3時間以上が55%に達し、3時間以内19%、2時間以内18%だった。毎月の料金は1万円以内が88%、支払者は自分17%に対し、親78%という結果だった。

いるかを聞いたところ、93%が「はい」と回答。「授業、ゼミ、サークル、イベント、アルバイト、就活などの連絡に欠かせない」「調べものに便利で、メモ取りやすい」といった理由が圧倒的だったが、「授業中の使用は勉学の妨げになる」といった意見もあった。スマホに絡むトラブルの経験を具体例で聞いたところ、ツイッター炎上・ネットストーカー・LINE既読無視・知らない人からの電話、ワンクリック詐欺など多くの事例が寄せられた。また、「ながらスマホ」への是非を聞いたところ、大半の人が「危ない」「迷惑」と回答しつつ、「危ないと分かっているけど、ついやってしまう」という回答も複数寄せられた。

スマホが学生生活(勉学、交友関係)に役立って



結果はこうでした



アンケート結果の感想

学校は「小さな社会」といわれると聞いたことがある。今回のアンケート結果を見ていくと、十文字生にも社会で起きているスマホ利用にかかわる実態が如実に反映されていることが分かった。特にスマホ絡みのトラブルはニュースにもなるような内容のものもあり、スマホの扱い方には注意の上にも注意を重ねていかなければとあらためて思った。(坂田佑莉記者)

伝統の「20キロ強歩大会」の試練は 大学生活の支え



「生徒の真面目さを大切にしたい」と語る岡岡先生

母校の朝霞高校といえば、男子・女子生徒ともに健脚を競う「20キロ強歩大会」が有名だ。
毎年秋、午前9時に川越の霞ヶ関に全校生徒が集まり一斉にスタート。砂利道、坂道も越え出発地点に辿りつく達成感は格別で、私自身も高校時代3年間を通して、自分の成長を確認してきた。
「朝霞高校は、『生徒を鍛える』学校です。自らも朝霞高校出身の富岡隆志先生

関根せなさん (生活情報学科2年)

埼玉県立朝霞高校

麗し 母校



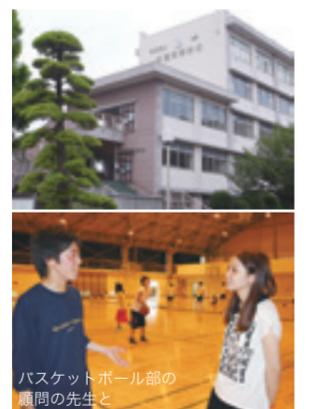
一番の思い出は「20キロ強歩」

十文字学園女子大学では、埼玉など首都圏や全国世界の高校から集まった学生が勉学や部活動に励み、就活に汗を流している。その忙しい日々、ふと思いつくのは、自分を大学に送り出してくれた母校のことだ。十文字生よ！しばし時を止め、青春の原点だった高校時代を振り返って大学での我が身の成長を確かめ、学園歌のように「世の中に立ちて甲斐ある」志を奮い立たせよう。(50音順)

友松麻美さん (メディアコミュニケーション学科3年)

埼玉県立新座高校

藤本成校長が強調してやまない「生徒と教師の心が共に響きあう学校」が、新座高校のカラーだ。思い起こせば、私は、ここで先生と「1対1」で向き合い多くの悩みを克服してきたし、気がついたらバスケッ



バスケットボール部の顧問の先生と

「責任、我慢、達成感」の 自分探しは永遠



若い人こそ「今を精一杯生きてほしい」という藤本校長の言葉が私の胸に響いた

トボールの部長になっていたのだ。部員数が激減した時も廃部にはさせないと飛び回り、その後、後輩たちの価値ある「一勝」の報告に小躍りした。やりたいこと、思ったことを言葉にして相手に伝え、実現できた自分がそこにいた。
この「高校時代の経験」のお陰で、今、私は大学でバスケットボールを続け、学友会活動(代表委員会 渉外局)にも精を出し、学科のイベントやグループワークの授業でも意見発表を重ねて、コミュニケーション力が試される場面を乗り切っている。
大学2年の冬、「文章表現(発展)」の授業で行われる『十文字メディアニュース』の取材で、平本一郎テレビ埼玉社長のインタビューに成功した。まるで自分が本物の記者になれた気分、大学生ならではの貴重な体験だった。
何かを任せられる「責任の重さ」と、最後に皆で一つのことをやり通す「達成感」、そして簡単には進まない時の「我慢」は、ともに高校から大学生へと続く私の成長のキーワードなのだろう。就職活動を前に、私はもっと自分のハードルを高くして新たな「自分探し」にも挑戦していきたい。

OG

から学ぼう



食物栄養学科 平成23年度卒 岡崎仁美さん



2年前に食物栄養学科を卒業した岡崎仁美さんは、ふじみ野市にある「社会福祉法人崇徳会特別養護老人ホームマザーアース」で管理栄養士(栄養課主任)として働く。施設を利用する人たちの献立作りが主な仕事だ。固さ、軟らかさなど多様なニーズを意識した食材選びから栄養バランスまで、各方面に配慮しながら食べやすい工夫

水野遥さんは、「株式会社アイソルト」(新宿)マーケティング部に所属。若手のビジネスパーソン向けコミュニケーションオンラインスクール「ウェビ」の運営に携わり、web広告による集客・HP制作にあたる。

「最後まで制作に関わる仕事に就こうとこだわったからこそ、今の私があります。自分を介して多くの方の人生のきっかけになる文章を書いていきたい」。卒業式直前に



社会情報学部コミュニケーション学科 マスメディアコース 平成24年度卒 水野遥さん

教え合う「友情」を大切に

利用者は約1000人。地域に密着した施設なので顔見知りが多い。「毎日おいしい食事をありがと」と言われることが一番うれしいです。学生時代のゼミの先生に会うため新座キャンパスを訪ねた岡崎さんの表情はやりがいに満ちていた。
「学科の先生方に勉強から就活まで親身に接していただいたことに感謝しています。温かい雰囲気が好きでした」
「ゼミの友達とよく教え合いました。その友情が今でも頼りです。後輩の皆さんも友達との絆を大事にしてほしい」
管理栄養士の試験勉強に汗を流す在校生に贈った金言も「友情」の二文字だった。(中村有香記者)

内定を得た2年前の就職活動は、自分を成長させてくれた試練の舞台だった。
なぜこの会社に?
「積極的に声をかけてくれるアットホームなこの会社にどうしても入りたと思って…」
就活のコツは?

「そこで働いている『人』を見ること。本当に入りたい企業には、面接で自分をさらけ出して答えること。『素』が大事ですね」
学生時代、「新座キャンパスだより」の編集長を務め、テレビ埼玉の女性報道部長との対談が埼玉新聞の特集に載った。笑みを絶やさない口から、たくましい言葉が出た。

面接は、自分の「素」で勝負

「私ごと見えても芯は結構、強いですよ」
——水野先輩の十文字スピリッツに乾杯。(坂田佑利記者)

2014年度8月～12月 公開講座のご案内

大学開放・地域連携推進センターから

下記のとおり公開講座を開催します。ふるってご参加ください。公開講座のお知らせは、本学ホームページにも掲載しています。

十文字学園女子大学公開講座

特別支援教育の新たな前進

- 日 8月30日(土) 13:30～15:00
- 司 岩井雄一(特別支援教育センター長)
- 講 上野一彦氏(東京学芸大学名誉教授、日本心理研修センター理事)
- 員 200名

子育て支援の現状と地域的課題

- 日 11月29日(土) 13:30～15:00
- 司 栗原直樹(人間生活学部人間福祉学科教授)
- 講 坂本純子氏(NPO法人新座子育てネットワーク代表理事)
- 福田裕里氏(「福祉の里」副館長)
- 福田智雄(人間生活学部人間福祉学科教授)
- 員 200名

予約方法・お問い合わせ先

◇各講座1カ月前より、予約の受付を開始いたします。参加希望の方は、必ず、事前にご予約ください。先着順で、定員になり次第締め切りとさせていただきます。1回ごとのお申込みになります。◇電話または専用メールフォームからのいずれかでお申込みください。

桐華祭講演会

『伝える』ということ

- 日 10月25日(土) 13:30～15:00
- 司 好本 恵(元NHKアナウンサー・21世紀教育創生部特任教授)
- 講 松平定知氏(元NHKアナウンサー・京都造形芸術大学教授)
- 員 200名
- 協 埼玉まなびいプロジェクト協賛事業



様々な場で活動している。第36回放送文化基金賞、現在、京都造形芸術大学教授、早稲田大学大学院・国学院大学客員教授を務める。「歴史を「本当に」動かした戦国武将」「心を豊かにする言葉術」(小学館101新書)、「謀る力」(小学館新書)など多数。

◇専用メールフォームは下記URLにアクセスの上、必要事項を記載いただき、お申込みください。メールフォームは講座ごとに分かれております。「受付完了」の返信メールが届いた時点で「受付完了」とさせていただきます。定員超過の場合はご連絡させていただきます。

新座市内大学公開講座

文芸世界への招待状～四季物語～

- 司 星野敦子(大学開放・地域連携推進センター長・人間生活学部生活情報学科教授)
- 員 各200名
- ※各回ごとに申し込みが必要です。
- 第1回 「春の章 巨匠たちとエコロジー—ロシア文学の自然誌—」 ○日時:11月1日(土) 13:30～15:00 ○講師:小林 実(短期大学部表現文化学科准教授)
- 第2回 「夏の章 夏の夜の笑—文学から学ぶ英国式ユーモア—」 ○日時:11月15日(土) 13:30～15:00 ○講師:落合真裕(短期大学部表現文化学科講師)
- 第3回 「秋の章 味ことばの100年史—おいしい日本語いまむかし—」 ○日時:12月6日(土) 13:30～15:00 ○講師:星野祐子(短期大学部表現文化学科講師)
- 第4回 「冬の章 王朝文学の冬の風景—清少納言が見た雪—」 ○日時:12月13日(土) 13:30～15:00 ○講師:赤間恵都子(短期大学部表現文化学科教授)

予約方法・お問い合わせ先

社会交流支援課/大学開放・地域連携推進センター TEL:048-477-0958(直通) 【ホームページURL】 <http://www.jumonji-u.ac.jp/outline/lecture/index.html> ※上記QRコードからもお申込みできます。



表現文化学科公開講座



元タカラジェンヌ
日向 薫さん 本学で大いに語る
朗読ミュージカルでも魅了



平成26年5月31日、本学において「宝塚歌劇の歴史と楽しみ方」をテーマにした公開講座が開催された。

講師は、元タカラジェンヌの日向薫さん。宝塚に16年間在籍し、史上最長身のトップスターとしてスポットライトを浴びた。退団後も舞台やコンサートを中心に活動し、本学でも

「学生は原石」失敗体験、成功体験をもっと!



横須賀学長も加わり、グループごとに学生の力を伸ばす知恵を絞る教職員



平成26年度 名誉教授称号記授式

学生の力を伸ばす教職員の勉強会 熱く

1 2

あなたは原石よ! そう学生を信じて成長を見守ってほしい。『学生の『伸びしろ』をどうのばすか』をテーマに、教職員がリラックスした雰囲気の中で存分に話し合う「ワールド・チョコレート・カフェ」(フリーストールの会)が2月13日、本学で開かれた。

全学FD委員会の呼びかけで集まった教職員は36名。8つのテーブルに4、5名ずつ着席し、メンバーが入れ替わりながら知恵を絞り、横須賀学長も加わって伸びしろのある学生を育て上げる方策を話し合った。

「テーマ探究」「アイデアの他花受粉」→「気づき・発見の統合」の対話プロセスを経たテーブルごとの発表では、参加者代表が、アイデアを共有し繋げるために使用した模造紙を前に、議論をまとめ提言を行った。

グループ発表の中では、「伸びしろ」とは学生の可能性であり、個々に応じたコミュニケーション能力・社会性・人間性を伸ばして成長に繋げるためには、学生のタイプを見極め丁寧に指導していく必要がある等

の認識が示された。「教職員自身がきらきら輝く『伸びしろ』を見せることにより、学生が『あんな大人になりたい』という気持ちを高めるようにしたい」と、教職員側からの率直的な取り組みを促す意見も出た。

具体的な取り組みとしては、間違いを指摘されたり失敗することを恐れる最近の学生の傾向を踏まえて、「学生が大人になっていくためには成功体験、失敗体験ともに必要であり、特に失敗を恐れない雰囲気づくりを教職員が醸成したい」と力を込めるグループもあった。

卒研と発表への主体的取り組み、OGとの交流や先輩と後輩が触れ合って伸びる「異学年交流」、資格取得などといった処方箋や、外国での生活体験、就活に向けたインターンシップ等の社会体験の機会が多く設けられている本学の充実した学びのメニューを学生によく知ってもらう大切さも確認。個々の学生の特性に合わせた「伸びしろ」を教職員が見守り、出来たことを褒めてあげ「やる気スイッチ」が入るように導いていく目配りの大切さが強調された。

名誉教授称号記授式

3

教授として長年勤務し、教育上または学術上特に功績のあった教員に授与される名誉教授の称号が、3月末をもって定年退職された森三樹雄教授、橋本ヒロ子教授、島村豊博教授、長坂敏史教授、濱口孝子教授、

坪倉紀代子教授にそれぞれ授与された。

5月9日、本学理事長室において、十文字一夫理事長、横須賀学長らが出席し、和やかに名誉教授称号記授式が執り行われた。

「10年の歩み」が小冊子に

人間福祉学科

人間福祉学科はここまで歩んでくることができた。その歩みの記録である。

人間福祉学科第1期生(04H A)の入学から、第10期生(13J E)入学までの10年の歩みをまとめた小冊子(写真)ができた。

「教育・研究・実践をつなぐために」という副題が示すように、社会福祉学という実践的学問においては、福祉現場との連携が欠かせない。実習を受け入れてくださった施設・機関をはじめ、卒業生が働く現場まで、学外から多くのご協力をいただいで

今回は、同窓生・学生の寄稿が少なく、教員による記録や原稿が主である点は残念だが、今後に期待したい。入手希望の人間福祉学科同窓生は、人間福祉学科実習準備室にどうぞご連絡を! (宮城道子教授)



一日警察署長の役に緊張

メディアコミュニケーション学科3年 村田 萌

4月4日、私は新座警察署の「一日署長」に委嘱され、制服に身を包んで交通安全運動スタートを市民に呼びかけました。

この日は、千葉保治署長から委嘱状を授与され、全国交通安全運動出発式でのスピーチ、パトカーに同乗しての交通安全PR、白バイ視察など大忙し。特に出発式でのスピーチは緊張しましたが、交通安全の大切さを自分の肉声で語ることができ、大役をなんとかなうことができました。

私は高校生の時に自転車で乗っていて事故に遭



千葉新座警察署長から委嘱状を授与される村田さん

ありがとうございました。こうした機会を与えていただいた関係者の皆様に感謝いたします。

関根郁夫埼玉県教育長が来校

「教員のネットワークを」



本学教職員と懇談する関根埼玉県教育長(左)

埼玉県立浦和高校の校長を務め「少なくとも三兎(勉強・部活動・学校行事)を追い」の著書もある関根郁夫埼玉県教育長が5月9日、十文字学園女子大学を訪問し十文字理事長、横須賀学長と懇談するとともに、教職員有志らと意見交換した。

この中で関根教育長は、高校教員と外部の繋がりが希薄になっている現状に対し、「大学と連携をとりながら教員同士のネットワークをつくり上げるのが大切」などと、繋がる意義の重要性を強調した。グローバル人材の育成に関しては、「相手の考えを聞くとともに、かつ自分でもの考え自分の意見を持てるように導く認識を示した。渋谷治美埼玉大学元副学長が同行し、本学の授業・施設も見学した。

お知らせ 十文字学園女子大学・同短期大学部 保護者会 in 大宮のご案内

保護者の皆様から本学の教育や学生の自主活動への指導など全般についてのご要望をお聴きし、また現在、本学が目指している改革への理解を深め、併せて本年度の就職状況をご報告することを目的とした「保護者会 in 大宮」を開催します。記念講演は、埼玉県教育長の関根郁夫氏を講師にお招きします。多数の保護者の方のご出席をお待ちしています。

【日時】平成26年11月22日(土) 13:30~16:50(受付13:00~)

【場所】パレスホテル大宮 3階 チェリールーム 千330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-7-5

【交通】JR大宮駅西口から徒歩3分

【申し込み】11月7日(金)までに、学生生活課にお電話(048-260-7735(直通))で、学生氏名、学籍番号、出席者氏名をご連絡ください。

第48回 桐華祭は 10月25、26日

今年で48回目を数える桐華祭が10月25日(土)、26日(日)に開催されます。当日は研究発表・展示、ダンス発表、模擬店など多彩な催しが繰り広げられます。学生の自主企画、「ミスおもてなしコンテスト」も開催します。学生や教職員はもちろん、家族連れなど多くの方々にぎわう学園祭をお越しください。

26年度「後期冠講座」

- 火曜日 4限 「毎日新聞女性記者からのメッセージ」 (協力企業・団体：毎日新聞社) 担当：宮城道子教授
- 水曜日 5限 「フジテレビで作る報道番組」 (協力企業・団体：フジテレビ) 担当：岡村正和副学長
- 木曜日 4限 「株式市場からみる日本経済」 (協力企業・団体：野村證券) 担当：込江雅彦准教授
- 金曜日 4限 「丸ごと県庁 出前講座」 (協力企業・団体：埼玉県庁) 担当：石野榮一特任教授